資料４

研究公正推進事業の令和７年度実績及び令和８年度事業計画

令和８年６月５日

文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構

研究公正推進事業
（文部科学省/日本学術振興会/科学技術振興機構/日本医療研究開発機構）

令和8年度予算額　1億円
（前年度予算額　1億円）
※運営費交付金中の推計額含む

文部科学省

現状・課題

文部科学省では、研究活動の不正行為に対する基本的考え方を明らかにした上で、研究活動における不正行為を抑止する研究者、科学コミュニティ及び研究機関の取組を促しつつ、文部科学省、配分機関(FA)及び研究機関が研究者による不正行為に適切に対応するため、それぞれの機関が整備すべき事項等について指針を示すものとして、「**研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン**」(平成26年8月 文部科学大臣決定)を策定。

同ガイドラインに基づき、研究機関に対して、「研究倫理教育責任者」の設置などの必要な体制整備を求めるとともに、特に大学においては、各大学の教育研究上の目的及び専攻分野の特性に応じて、学生に対する研究倫理教育の実施を推進していくことを求めている。文部科学省では、体制整備の状況等を把握するため、**研究機関に対し定期的に履行状況調査を実施**するとともに、配分機関等と連携し、**研究倫理教育に関する標準的なプログラムや教材の作成を推進**している。

事業内容

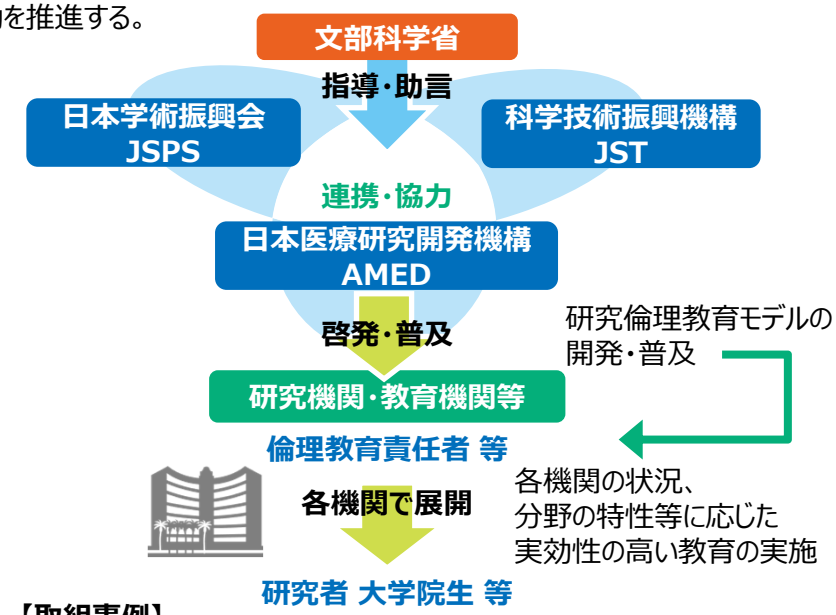
【事業の目的・目標】

研究現場の実情や研究活動の多様性、研究分野の特性等も踏まえつつ、実効性の高いプログラムとするため、研究倫理教育教材の開発・普及や研究倫理教育の高度化支援等により、公正な研究活動を推進する。

【事業概要】

＜日本学術振興会＞（39百万円）	＜科学技術振興機構＞（74百万円）	＜日本医療研究開発機構＞（21百万円）
◆研究倫理教育教材の開発・普及		
テキスト教材(Green Book)、eラーニング教材(eL CoRE)	研究倫理映像教材の制作 ※実践力強化のための双方向型教育モデルの開発・普及	医療分野の研究不正に関する事例集 医療分野の研究公正に関するヒヤリ・ハット集
JSPS研究倫理セミナー	研究倫理教育担当者WS	
研究者の教育効果向上	担当者による研究機関での研究倫理教育の企画力向上	適正な画像処理方法～雑誌の投稿規定の解説～
◆情報発信・連携・窓口		
	・ ポータルサイトの作成・運用等 ・ 研究公正シンポジウムの実施(3FA連携) ・ 研究機関からの体制構築の相談対応・助言(3FA)	・ 研究公正担当者のネットワーク構築

＜文部科学省＞　○ ガイドラインに基づく履行状況調査等（3百万円）



【取組事例】

- eラーニング教材(日英)の開発・公開　<JSPS>
- 研究公正ポータルサイト(日英)の構築・運用　<JST>
- 医療分野の研究不正事例集の作成　<AMED>
- 研究公正シンポジウムの開催(3FA連携、毎年度実施)　等

（担当：科学技術・学術政策局参事官(研究環境担当)付 研究公正推進室）

日本学術振興会（JSPS）

令和7（2025）年度実績

1．研究倫理教育教材の開発・普及

（1）テキスト教材（Green Book）の改訂等

〇令和７年9月に第2版を刊行。
〇ホームページにおいてテキスト版（日本語版・英語版・製本版）を公開

（2）eラーニング教材（eL CoRE）の運用・改善等

〇研究者向け・大学院生向け教材
・それぞれについて日本語版、英語版を提供
・利用者にアンケートを実施し、利用状況および要望等を集計
コースレビューのテキストマイニングを実施
登録者数：**1,148,026**名（令和7年12月末時点）※のべ人数

2．研究倫理教育の高度化

〇第8回JSPS研究倫理セミナー（令和7年12月5日）
「研究者倫理教育にグループワークを導入する」の開催
※オンラインセミナーとして実施
・eL CoRE既履修者で、研究機関の研究倫理教育担当者44名が参加
・専門家による講演やグループワークを実施

〇研究公正シンポジウムの開催（令和7年11月21日）
テーマ：ーオープンサイエンス時代における責任ある研究活動についてー
（主催：JSPS、共催：JST、AMED、JAXA、NEDO、BRAIN）
・研究者や研究機関事務担当者などが参加
・専門家による講演やパネルディスカッションを実施

3．不正に関する告発等受付窓口

〇メール等により告発等を受付

令和8（2026）年度計画

1．研究倫理教育教材の開発・普及

（1）テキスト教材（Green Book）の改訂等

〇令和8年度中に英語版も改訂予定。

（2）eラーニング教材（eL CoRE）の運用・改善等

〇教材の改修
・Green Bookの改訂を踏まえ、必要な改修を検討

2．研究倫理教育の高度化

〇第9回JSPS研究倫理セミナーを実施予定（2026年冬頃）
※対面または、オンラインにより実施予定

〇研究公正シンポジウムの実施
・2018年度より、JSPS、JST、AMEDが持ち回りで実施。
・2026年度はAMED主催予定。

3．不正に関する告発等受付窓口

〇メール等による告発等の受付を引き続き実施

JSPS

研究倫理教育教材の開発・改訂 *Green Book*

『科学の健全な発展のために　第2版－誠実な科学者の心得－』

平成27年3月に初版を出版後、研究をとりまく環境が変化した事等を踏まえ、**令和7年9月に第2版を出版。**

【主な改訂箇所】

研究倫理教育の在り方に、志向倫理の視点を追加

研究者が倫理規範を守り、研究不正行為を未然に防ぐことを求める「予防倫理」の考え方に加えて、今回の改訂では，人と社会のwell-beingに貢献するために，何をなすべきかを考え、研究者が自律的に責任ある研究活動を実践し、より良い研究の推進を目指す「志向倫理」の視点を取り入れた。

法、倫理指針、ガイドライン等を最新の情報に更新

・個人情報保護法の改正を受けて、内容を改訂。
・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス、ヘルシンキ宣言などについて、最新の情報を紹介。



データの収集・管理・公開について

オープンサイエンス推進に関する近年の動向やデータの収集・管理・公開について、新たに追加。

研究インテグリティについて

・研究の国際化やオープン化に伴う新たなリスクへの対応について記載
・近年の安全保障輸出管理のルールについて記載

研究不正行為、好ましくない研究行為（questionable research practices: QRPs）について追記

・ガイドライン（H26.8決定）に記載される特定不正行為と不正行為について詳述。
・研究不正に係る事例の更新。二重投稿や、著作権と盗用の関係について最新の情報に更新。

科学技術振興機構（JST）

令和7年度実績	令和8年度計画
1．研究倫理教育教材の開発・普及 **（1）ポータルサイトの作成・配信運営等** ○研究公正・研究倫理に関する様々な情報を配信 ○研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実 ○英語版の研究公正ポータルの運用 ○研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子） ○映像教材「倫理の空白Ⅳ研究活動のグレーゾーン2」公開(令和7年5月) **2．研究倫理教育の高度化** **（1）研究倫理映像教材の制作** ○倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に応じたケースメソッド式映像教材 「倫理の空白Ⅴ　責任ある研究活動（データ管理編、共同研究編）」、令和6年度映像教材の手引書制作 **（2）研修会・シンポジウムの実施** **○研修会（WS）等の実施** ・研究倫理教育担当者対象の研修会を実施 (セミナー6月、ワークショップ９月(2回)) **○出前講習の実施** ・研究機関等からの要望に応じて、JSTによる研究倫理に関する講習会を実施。研究機関で倫理研修を実施する際の参考としてもらうことがねらい **○研究公正シンポジウムの実施** ・配分機関の連携により、オンラインにて開催 （JSPS主催（11月）） **3．不正防止・対応相談窓口** ○電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応	**1．研究倫理教育教材の開発・普及** **（1）ポータルサイトの作成・配信運営等** ○研究公正・研究倫理に関する様々な情報を配信 ○研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実 ○英語版の研究公正ポータルの運用 ○研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子） ○映像教材（倫理の空白Ⅴ　責任ある研究活動）等の公開 **2．研究倫理教育の高度化** **（1）研究倫理映像教材の制作** ○倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に応じたケースメソッド式映像教材 **（2）研修会・シンポジウムの実施** **○研修会（WS）等の実施** ・映像教材を活用し研究倫理教育担当者対象の研修会などを実施 **○出前講習の実施** ・規模や体制等の事情から、研究機関自らでは研究倫理講習を実施しずらい機関を主な対象に、研究機関からの要望に応じて講習を実施 **○研究公正シンポジウムの実施** ・配分機関の連携により開催予定 （令和８年度はAMED主催） **3．不正防止・対応相談窓口** ○電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応

令和7年度制作 研究倫理教育映像教材
「倫理の空白Ⅴ　責任ある研究活動」

責任ある研究活動に向けて、研究成果の信頼性確保などの観点から重要となる「データ管理」と、
分野や組織をまたいで行われる「共同研究」に焦点を当てた映像教材を制作。
ドラマの視聴とディスカッションを組み合わせたワークショップやグループワークで活用することを想定し、
大学における講義、研究機関での講習などさまざまなシーンで使用できるものとした。

令和7年度映像教材のテーマ:「データ管理」、「共同研究」

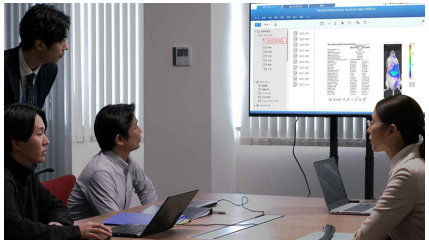
【データ管理編】 視聴時間　約31分
叡都大学の根岸研究室が発表した論文はニュース記事でも紹介され、話題となっていた。そんな中、『不正の疑いあり。データの一部は使い回し？』とSNS上に書き込まれた不穏な投稿を見て、メンバーの空気が一変する。根岸教授と研究室のメンバーは不安に陥りながらも、不正がないことを証明するために、論文のデータを電子ラボノートにより検証していく。

【共同研究編】　視聴時間　約30分
央理大学 大学院農学研究科の竹澤研究室は、食品メーカーと共同研究の契約を結び、機能性表示食品を開発することになった。共同研究には同大学院理学研究科の松村研究室も参加するが、竹澤は年長の松村教授との意思疎通に悩む。企業との契約内容の確認不足、研究者間での情報共有やコミュニケーションの難しさを感じながらも、産学官連携コーディネーターのサポートを受けながら、チームとしての良い関係性を徐々に築いていく。











国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

令和７（２０２５）年度　実績	令和８（２０２６）年度　計画
１．研究倫理教育教材の開発・普及・高度化 **（1）研究不正に関する事例集** ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知 **（2）研究公正に関するヒヤリ・ハット集（第2版）** ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知 **（3）適正な画像処理方法～雑誌の投稿規定の解説（第2版）** ・「適正な画像処理方法」（第2版：英語版）の作成 ・「適正な画像処理方法」のホームページ掲載・周知 **(4)ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント～未然に防ぐリスクと質向上のための実践的アプローチ～** ・「ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント」（第2版：日本語版）の作成 **２．情報発信及び連携・ネットワークの強化** **（1）RIOネットワーク** ・研究公正に関する情報について、メールマガジンの定期配信 ・RIOシンポジウムの開催（社会共創課と連携して開催） **（2）セミナー・ワークショップ** ・研究公正に関するヒヤリ・ハット集（第2版）を活用したWS開催【NEW】 ・「適正な画像処理方法」（第2版）を活用したWSを開催 ・「ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント」を活用したWSを開催 ・研究データ管理に関するセミナー・WSを開催 **（3）研究公正シンポジウム** ・JSPS主催で6FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN、JAXA）連携により、研究公正シンポジウムを開催 **３．不正防止・対応相談窓口** ・書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応	**１．研究倫理教育教材の開発・普及・高度化** **（1）研究不正に関する事例集** ・「事例から学ぶ公正な研究活動～気づき、学びのためのケースブック～」（第2版）の作成【NEW】 **（2）研究公正に関するヒヤリ・ハット集（第2版）** ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知 **（3）適正な画像処理方法～雑誌の投稿規定の解説（第2版）** ・引き続き、日本語版・英語版のホームページ掲載・周知 **(4)ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント～未然に防ぐリスクと質向上のための実践的アプローチ～（第2版）** ・引き続き、ホームページ掲載・周知 **２．情報発信及び連携・ネットワークの強化** **（1）RIOネットワーク** ・研究公正に関する情報について、メールマガジンの定期配信 **（2）セミナー・ワークショップ** ・「適正な画像処理方法」（第2版）を用いたWSを開催予定 ・研究データ管理に関するセミナー・WSを開催予定 **（3）研究公正シンポジウム** ・AMED主催で6FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN、JAXA）連携により、研究公正シンポジウムを開催予定（秋頃）【NEW】 テーマ案：「研究の未来と公正性：生成AI時代の研究公正の課題とは」 **３．不正防止・対応相談窓口** ・書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応

令和7（2025）年度　研究公正に関する取組

『ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント～未然に防ぐリスクと質向上のための実践的アプローチ～』（第2版）の作成・公開

- 一般社団法人日本臨床試験学会と連携し、臨床研究者、臨床研究専門職の立場に特有の課題や作法等を踏まえたテキストブック
- 令和8年2月に事例を追加した第2版を発行。（第1版：14事例→第2版:33事例）

【掲載先】https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kiyouzai_hiyarihatto_00002.html

執筆者・監修者（※監修者等の所属・役職名は当時のもの）

山口 拓洋　東北大学 大学院医学系研究科 医学統計学分野
　　東北大学病院 臨床試験データセンター センター長・教授
小居 秀紀　杏林大学医学部付属病院 臨床研究センター 副センター長、企画・情報管理解析部 部長
一村 昌彦　国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 研究企画推進部 DX推進室
倉本 宏美　岡山大学病院 新医療研究開発センター データサイエンス部 データマネジメント室 室長
田丸 智巳　三重大学医学部附属病院 臨床研究開発センター 血液・腫瘍内科 センター長・教授
樽井 弥穂　大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター モニタリンググループ 主任
横田　崇　東北大学病院 臨床研究監理センター 被験者保護部門 特任講師



研究公正・研究倫理教育に関するイベントの開催

- 研究公正に関するセミナー・ワークショップを12回開催した。

令和7年度研究公正ワークショップ「研究公正に関するヒヤリ・ハット事例に学ぶ」第1回・第2回
『ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント』を活用したワークショップ第1回・第2回
研究公正・研究倫理委検討特別委員会成果物　「ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント（第2版）」を手に取ってみよう！　日本臨床試験学会主催・AMED共催
令和7年度研究公正セミナー「研究データ管理の観点から、研究の信頼性を高めよう！」第1回・第2回
令和7年度研究公正ワークショップ「研究データ管理の観点から、研究の信頼性を高めよう！」第1回・第2回
革新的先端研究開発支援事業「性差・個人差の機構解明と予測技術の創出」研究開発領域 令和7年度若手の会内講演「適正な画像処理方法」
研究倫理ランチョンセミナー「研究不正を考える一私たちが何をすべきか？」日本分子生物学会主催・AMED共催
「2025年度RIOネットワークシンポジウム」AMED主催・CReP協会協力

